

春	歳時記の始めは春や暖かし	2019. 5. 4	雪解	雪解けの富士の麓の桜海老	2019. 5. 16
	歳時記の春に始まることもかな	2019. 5. 16		雪解の富士の麓の桜海老	
	春なれや駅蕎麦に乗る桜海老	2019. 5. 16		雪解の富士の冷たき桜海老	2019. 5. 17
	春なれや駅蕎麦の上に桜海老			雪解の富士のつめたき桜えび	
	春なれや掻揚にして桜海老			雪解の冷たき富士と桜えび	2019. 5. 19
	春なれや富士の麓の桜海老			雪解の富士と冷たき桜えび	
寒明	寒明や割りて鋭きチョコレート	2019. 5. 9		雪解の富士の冷たき桜えび	2019. 5. 25
早春	熊に負けじと春先の苦きもの	2019. 5. 10		雪解の富士の冷たき桜貝	
	熊も食ふなる春先の苦きもの		鞆	ふらここに風船ガムをふくらます	2019. 5. 5
春浅し	浅春や熊も食ふなる苦きもの	2019. 5. 10		ふらここに座つてみると揺れるなり	2019. 5. 29
立春	歳時記の春を開きて春立つ日	2019. 5. 16	壺焼	壺焼の壺を貰つて帰りけり	2019. 3. 17
花冷え	花冷や金閣金の鎖垂れ	2019. 5. 13	野焼	白雲は先を急がず野火猛る	2019. 5. 20
行く春	行く春のしんがり白きスーザフォン	2019. 5. 13	雛祭	雛壇に転がつてゐる砂時計	2019. 4. 25
	行く春のしんがりの白スーザフォン			雛壇に時の止りし砂時計	2019. 5. 13
	行く春の遅れがちなるスーザフォン			雛壇に時を操る砂時計	
春の風	歳時記の春を開けば春の風	2019. 5. 16		ひよろひよろと手足細くて雛祭	2019. 5. 5
	歳時記を開かんとする春の風	2019. 5. 22		まるちゃんの細き手足や雛祭	2019. 5. 10
	歳時記の春の中より春の風			女の子手足細くて雛祭	2019. 5. 14
	歳時記の春の頂より春の風	2019. 5. 23		背は伸びて手足細しや雛祭	2019. 5. 16
	歳時記の春の巻より春の風			背が伸びて細き手足や雛祭	
春の雲	バックネット裏の賑ひ春の雲	2019. 5. 5	蒸鯨	画用紙の如く干されて蒸鯨	2019. 5. 5
	バックネット裏の弁当春の雲			画用紙の干さるる如く蒸鯨	2019. 5. 16
	バックネット裏の餡パン春の雲				
	バックネット裏のあんパン春の雲			入学	まだ読めぬ名札を付けて入園す
春の雪	淡雪のあはと書くこそあはれなり	2019. 5. 4	レガッタ	煙突の長さのポートレースなり	2019. 5. 5
	あは雪のあはと書くこそあはれなり			電柱の長さをポートレースかな	
	淡雪をあは雪と書くあはれかな	2019. 5. 10		電柱の長さのポート競ひけり	
	淡雪をあは雪と書く哀れかな			電柱の如きポートをレガッタよ	2019. 5. 10
	淡雪をあはゆきと書く哀れかな	2019. 5. 16		電柱の長さなりけりレガッタや	
残雪	残雪や熊も食ふなる苦きもの	2019. 5. 10		レガッタの細身を漕げる腕太し	2019. 5. 14
	残雪や熊に目覚めの苦きもの	2019. 5. 20		レガッタに順次男を詰め込んで	
	残雪や熊にお目覚の苦きもの			レガッタは電信柱ほど細く	
	残雪や目覚めの熊に苦きもの			弾倉の如くレガッタに男詰め	
	残雪や目覚めし熊に苦きもの			弾丸の如くレガッタに男詰め	
	残雪や目覚めし熊が苦きもの			青豆の如くレガッタに詰め込まれ	
	残雪や熊を目覚ます苦きもの			青豆のごとレガッタに詰め込まれ	
	残雪や熊が貪る苦きもの			電柱は留まりレガッタは進む	2019. 5. 22
	残雪や苦きもの食ふ熊がゐて	2019. 5. 21		電柱は刺さるレガッタは進む	
				電柱は縦にレガッタは横に	
			電柱は刺さりレガッタは進む		

虚子忌	<u>虚子の忌の棒を継ぎ足し継ぎ足して</u>	2019. 5.22	落の薑	雪を出て熊に食はるる落の薑	2019. 5.22	
	一生を棒の如くに虚子忌かな	2019. 5.13		雪を出て熊を目覚ます落の薑		
	一生を貫く棒の虚子忌かな	2019. 5.17		雪を出て熊を促す落の薑		
	一生を棒となしたる虚子忌かな			雪を出て熊に起きよと落の薑		
	虚子の忌の貫く棒の如きもの			雪を出て熊を叱咤の落の薑		
	一生を棒の貫く虚子忌かな			雪を出し熊を叱咤の落の薑		
	虚子の忌を貫く棒の如きもの			雪を出し熊よ起きよの落の薑		2019. 5.23
	虚子の忌や貫く棒の如きもの			雪を出し熊を起こさん落の薑		
囀り	<u>猫もまた囀りを聞く耳二つ</u>	2019. 4.25		落の薑目覚めの熊を叱咤して		
桜貝	<u>桜貝永遠に幼き桜色</u>	2019. 1. 9		雪を出し熊を叱咤す落の薑		
	幼くて拐はれやすき桜貝	2019. 2.11		雪を出し熊を叱咤や落の薑		
	幼くて波に拐はれ桜貝	2019. 5.14		残雪の寝ぼけの熊に落の薑		
蝶	蝶も刺すなる虫ピンの頭かな	2019. 5.18		残雪や寝ぼけし熊に落の薑	2019. 5.25	
雲雀	こころみの雲雀餅とや買うてやる	2019. 5.18	残雪の熊覚醒の落の薑			
	<u>試みの雲雀餅とや買うてやる</u>	2019. 5.19		落の薑目覚めし熊に食はれけり		
猫の子	親猫が子猫の味を確かむる	2019. 5. 4		残雪の寝ぼけし熊に落の薑		
	味見するやうに猫の子を嘗むる			欠伸して熊の貪る落の薑		
	<u>味見するやうに子猫を舐めてをる</u>			眠さうな熊の貪る落の薑		
	幾度も子猫となつて生れ来よ	2019. 5. 4		眠さうな熊に食はるる落の薑		
	<u>もう一度子猫になつて会ひに来よ</u>			起きがけの熊に食はるる落の薑		
	もう一度子猫となつて会ひに来よ			起きてきし熊に食はるる落の薑		
	猫の子に舐められてゐる主かな	2019. 5. 8		目覚めたる熊に食はるる落の薑		
猫の子に舐められてゐる掌	2019. 5. 9		<u>お目覚めの熊に食はるる落の薑</u>			
猫の子に舐められてゐるこの世かな						
	猫の子の舐める大きな掌					
	<u>猫の子の頭に神の見えざる手</u>	2019. 5.12				
落椿	落椿踏んでみるのも修行かな	2019. 5.29				
	落椿踏んでみるのも修行なり					
	<u>落椿踏んでみるのも一修行</u>					
			土筆	ぐんぐんと伸びる土筆に音もなし	2019. 5.25	
			すくすくと伸びる土筆に音もなし			
			桜	花びらとなつて仕舞ひし桜かな	2019. 2.21	
				<u>花びらとなつて飛び立つ桜かな</u>	2019. 5.13	
				花びらとなつて遊覧飛行なり		
				永かれと小便かける桜かな	2019. 5.22	
				長生きの桜のもとに小便す	2019. 5.23	
				年寄の小便かける桜かな		
				百姓の小便かける桜かな		
				畑中に小便かける桜かな		
				畑中に小便もらふ桜かな		
				畑なかに小便もらふ桜かな	2019. 5.31	
				<u>畑中に小便もらふ桜の木</u>		
				流れ行く桜になれぬ水なれば	2019. 5.29	
				<u>流れ行く水は桜になれぬ水</u>		
			花びら	<u>花びらを蝶の如くに壁に刺す</u>	2019. 5.18	
				花びらを蝶の如くにピンで刺す	2019. 5.26	

山桜	一山を越えて一山桜かな	2019. 5.22	雷	遠山の雷を聞く畳かな	2019. 5. 3
山葵	山葵田の全幅の水奏でをる	2019. 5. 3		雷の親しき山に籠りけり	2019. 5.25
	<u>山葵田の水全幅で奏でをる</u>	2019. 5.14		雷の親しき山に修行かな	
暑し	石の暑さ鉄の暑さの線路かな	2019. 5.25		雷の親しき山に湯浴かな	
	石と木と鉄の暑さの線路かな			雷に慣れて親しき夏館	
	鉄と木と石の暑さの線路かな	2019. 5.26		雷を守護神として夏館	
	詠み続く今日の暑き句涼しき句	2019. 5.23		雷のよく鳴ることよ夏館	
	今日もまた詠むや暑き句涼しき句			夏館雷様に迎へられ	
	今日もまた朝から暑き句涼しき句		雲の峰	<u>白妙に白妙重ね雲の峰</u>	2019. 5.21
	今日もまた朝の暑き句涼しき句			太陽は昭和の彼方雲の峰	2019. 2.25
	暮れゆくや一日の暑き句涼しき句			太陽の彼方の昭和雲の峰	
	暮れゆくや今日の暑き句涼しき句			<u>太陽の彼方なりけり雲の峰</u>	
	小夜更けて今日の暑き句涼しき句			太陽の彼方に浮ぶ雲の峰	2019. 4. 8
	振り返る今日の暑き句涼しき句			もくもくと働いてゐる雲の峰	2019. 5.18
	やり過ごす今日の暑き句涼しき句			白無垢に白無垢重ね雲の峰	2019. 5.20
	句帳には今日の暑き句涼しき句			<u>もくもくと雲積み上げて雲の峰</u>	
	<u>やり過ごす今日の暑さよ涼しさよ</u>			筋骨は只の水滴雲の峰	2019. 5.21
	涼しさは猛き暑さの成れの果		夏の雲	夏は白雲丈の高きも誇らしき	2019. 5.20
	<u>涼しさは今日の暑さの成れの果</u>			夏は白雲丈の高さを競ひつつ	
涼し	誤字ひとつ見つけて涼しかりけるよ	2019. 5. 4		夏は白雲丈の高さの心意気	
	誤字ひとつ見つけて涼し書庫の奥	2019. 5.14		夏は白雲丈の高さのどこまでも	
	誤字ひとつ見つけ涼しき机かな	2019. 5.16		夏は白雲丈の高さの志	
	誤字ひとつあつて涼しき机かな			夏は白雲丈の高さに懂れて	
	誤字ひとつ見つけて涼し文机	2019. 5.17		夏は白雲天の高さでありにけり	
	<u>誤字ひとつありて涼しき机かな</u>			夏は白雲天の高さに並び立つ	
	涼しかる銀杏大樹の中なれば	2019. 5.21		夏は白雲天の高さのいとをかし	
	楠一字くすのきと読む涼しさよ	2019. 5.25		<u>夏雲は丈の高さを競ひをる</u>	
	井の涼しさにゐる子猫かな	2019. 5.26		夏は雲白無垢の丈高きこそ	2019. 5.21
	<u>井は涼しと猫の子が眠る</u>		夕立	夕立にささくれてゐる地べたかな	2019. 4.24
	井は涼しと子猫眠りをる	2019. 5.27		<u>夕立にささくれ立ちし地べたかな</u>	2019. 5.17
初夏	初夏の空が野を越え山を越え	2019. 4. 8	五月晴	<u>誤用また楽しからずや五月晴</u>	2019. 5.20
	初夏の雲が野を越え山を越え	2019. 5. 9	梅雨の	<u>梅雨の月花より濡れてゐたりけり</u>	2019. 5.30
入梅	<u>空の色空色ならず梅雨入前</u>	2019. 5.20			
炎昼	鉄と木と石の炎昼列車行く	2019. 5.26			
	鉄と木と石の炎昼電車行く				
	石と木と鉄の炎昼電車行く				
盛夏	もくもくと白雲立てり夏盛り	2019. 5.20			
	白雲のもくもく立てる真夏かな				
灼く	石と木と鉄の線路に電車灼け	2019. 5.26			
夜の秋	嘶家の同じ話や夜の秋	2019. 5.22			

炎天	天は燃え地は埃立つ日数かな 炎天の炎の如く埃立つ 炎天や炎の如く埃立つ	2019. 4. 8	夕焼	番号や団地の壁に夕焼けて <u>番号や団地の壁の夕焼けて</u>	2019. 3. 1 2019. 5.31
	金閣の金の瓦の炎天下 炎天や金の瓦の金閣寺 金閣の金の瓦の炎暑かな	2019. 5.13		夕焼の逆光に見る金閣寺 夕焼の逆光に立つ金閣寺 夕焼の逆光線の金閣寺	2019. 5.13
	炎天の線路時々電車来る 炎天の線路時々電車来る 炎天や臨時電車を待つてをる 炎天や臨時特急電車かな 炎天や臨時電車が突進す <u>石と木と鉄の道あり炎天下</u>	2019. 5.21 2019. 5.23 2019. 5.26		夕焼の影を引きたる部屋の中 夕焼の影を引きずるものばかり 夕焼の影を引きずる歩みかな 夕焼の影を引きずる広場かな 夕焼の影絵の遊び足らざるも	2019. 5.17 2019. 5.17 2019. 5.19
	片蔭	2019. 5.21		胡瓜揉み 胡瓜揉み作りたる手を舐めてみる 胡瓜揉み作りたる手の塩辛き <u>胡瓜揉み塩辛き手となりけり</u>	2019. 5.21 2019. 5.23
涼風	涼風の横へ横へと絵巻物	2019. 5.21	蚊遣	殺めつつ灰となりゆく蚊遣香 赤き火の灰となりゆく蚊遣香 みづからも屍となりぬ蚊遣香 みづからも骸となりぬ蚊遣香 <u>みづからも骸となりし蚊遣香</u>	2019. 5.18 2019. 5.19
西日	番号や団地の壁に西日うけ 番号や団地の壁に西日して <u>広場かな西日の影を引きずりて</u>	2019. 5.17 2019. 5.17	心太	固まつて薄き光の心太 硝子器に薄き光の心太 ぬるぬると薄き光の心太 ぬれてゐて薄き光の心太 曲線の薄き光の心太 混み合つて薄き光の心太 突き出して薄き光の心太 <u>沈黙の薄き光の心太</u> 沈々と薄き光の心太	2019. 5.12 2019. 5.14
	この路地や一直線に西日へと 路地や今一直線に西日へと 飛ぶ路地や一直線に西日へと 路地飛んで一直線に西日へと 路地駆けて一直線に西日へと 路地とんで一直線に西日へと 西日へと一直線の路地がある 西日へと一直線の路地となる 西日へと一直線の路地しづか 西日へとつながる路地の静かな 西日へとつながる路地の秘密かな 西日へとつながる路地の不思議かな 西日へと一直線の路地燃ゆる 西日へと一直線の路地が燃ゆ 西日へと一直線に燃ゆる路地 <u>西日へと一直線に路地燃ゆる</u>	2019. 5.23		蚤取粉 蚤取粉取つて煮るのが焼くのかと	2019. 5.29
				昼寝 <u>波音に眠り波音に昼寝覚</u>	2019. 5.25
				風鈴 風鈴をかまつてやるは風ばかり <u>風鈴を構つてやるは風ばかり</u>	2019. 5.29
				浴衣 <u>宿浴衣きのふは掛けふは縞</u>	2019. 4. 7
				冷蔵庫 <u>冷蔵庫ボタンと閉めてまた明日</u>	2019. 5.21
				豆蒔く 草や木の灰の功德や豆を蒔く 灰になりし草木の功德豆を蒔く 灰になりし草の功德や豆を蒔く 燃え尽きし草の功德や豆を蒔く 燃え尽きて灰の功德や豆を蒔く	2019. 3.22 2019. 5.13

豆飯	炊きやれば子に褒められし豆の飯	2019. 4. 14	揚羽蝶	虫ピンや揚羽の翅は刺さずけり	2019. 5. 18
	豆飯の贅沢な夜となりにけり	2019. 5. 22		虫ピンと称して揚羽蝶も刺す	
	豆飯の豊かなる夜となりにけり			見るからに傷ついてゐる揚羽蝶	2019. 5. 19
	初夏の青を散らして豆ごはん	2019. 5. 23		ありありと傷ついてゐる揚羽蝶	
田植	ふる雨に滲み出るとと田植人	2019. 5. 19		ありありと破れてゐたる揚羽蝶	
手花火	手花火の棒が残りぬ先が焦げ	2019. 4. 4		ありありと破れ目のある揚羽蝶	
	手花火の棒の残りしバケツかな	2019. 5. 9		ありありと片翅破れし揚羽蝶	
泳ぎ	泳ぐこと下手な体操部なりけり			破れ目の更に破るる揚羽蝶	
	水泳の下手な体操部員なり	2019. 5. 21		動くたび深き破れの揚羽蝶	
	水泳の下手な体操部なりけり	2019. 5. 22		動くたびに深手となりぬ揚羽蝶	
水着	夢の世の水着姿の女かな	2019. 4. 23		動くほど深手となりぬ揚羽蝶	
	夢の世に水着となつてゐたりけり	2019. 5. 11		動くほど深手となりぬ黒揚羽	
	夢の世の水着姿となりけり	2019. 5. 14	蟻地獄	急坂をさらさら下る蟻地獄	2019. 5. 17
	水着から滴るものを踏み行けり	2019. 5. 21	燕の子	遠く来て燕の幸や子沢山	2019. 4. 7
	ぶかぶかの水着にすれば涼しかる	2019. 5. 21		遠く来て子に恵まれし燕かな	2019. 5. 16
夏期講座	黒板を縦横に夏期講座かな	2019. 5. 17		遠く来て子宝を得し燕かな	
	黒板を縦横に夏期講座果つ			遠く来て子宝多き燕かな	2019. 5. 18
	教科書を離れ離れて夏期講座	2019. 5. 17		はるばると来て子宝の乙鳥	
サング	今どきの若い奴らのサングラス	2019. 2. 27		はるばると来て子宝のつばくらめ	2019. 5. 19
夏休	夏休み海は大きく塩辛い	2019. 5. 22		はるばると来て乙鳥の子沢山	
避暑	避暑の宿雷様に迎へられ	2019. 5. 25		子宝のあふるるばかり燕の巣	
	先客に雷様や避暑の宿			子宝のあふれんばかり燕の巣	
プール	地球儀がプールに二つ浮いてゐる	2019. 3. 29		子宝のこぼれんばかり燕の巣	
	地球儀がプールに二つ浮いてをる			子宝のこぼれむばかり燕の巣	
	地球儀が二つプールに浮いてをる		蛭	夢の世の人に恋せし螢かな	2019. 4. 23
誘蛾灯	誘蛾灯虫篝とは古風なる	2019. 3. 8	蝉	早起きの寝不足の蝉時雨とも	2019. 5. 30
	誘蛾灯虫篝とも言ひ伝へ			早起きの寝不足の蝉木に当る	
冷房	冷房のなき本堂の太柱	2019. 5. 25		早起きの寝不足の蝉時雨かも	
	冷房の効く本堂の太柱		玉葱	玉葱をバットで打つてみたきかな	2019. 4. 25
	冷房強し本堂の太柱		あやめ	洗はれて雨のあやめとなりにけり	2019. 5. 5
				あらはれて雨のあやめとなりにけり	
牡丹	白牡丹白濁といふ形なり			白牡丹白濁といふ形かな	2019. 5. 3
	白牡丹白濁といふ形かな			花びらの白濁したる白牡丹	2019. 5. 4
	花びらの白濁したる白牡丹			花びらは白濁の形白牡丹	
	花びらは白濁の形白牡丹			花びらの先の白濁白牡丹	
	花びらの端の白濁白牡丹			花びらの端の白濁白牡丹	2019. 5. 17

南瓜の花	花南瓜馬車の飾りの如く咲く 馬車を飾り御者を装ひ花南瓜 馬車飾る鈴に摘み行く花南瓜 馬車飾る鈴に化けたる花南瓜 <u>馬車飾る鈴になるべし花南瓜</u>	2019. 4. 8 2019. 5.13	鰯雲	いわし雲よりもくつきりきのご雲 いわし雲よりも明るききのご雲 いわし雲よりも明るしきのご雲 <u>いわし雲よりも大きなきのご雲</u> いわし雲集め大きなきのご雲	2019. 2.11
十葉	<u>毒だみや夜遊びに行く五六人</u>	2019. 5.22	月	<u>屋上に駐車場あり今日の月</u> スーパーの上に駐車や今日の月 <u>月光や屋上にある駐車場</u>	2019. 5.18 2019. 5.19
枇杷	本降りそのままに暮れゆく枇杷の種	2019. 3. 7	流れ星	黒板の文字の短命流れ星 ぶらんこの中へ数多の流れ星 ぶらんこが好きで数多の流れ星 ぶらんこが好きな流星こよひまた ぶらんこが好きな流星おびただし ぶらんこが好きな流星今宵亦 <u>ぶらんこが好きな流星遊びに来</u> 降り注ぐぶらんこ好きの流れ星 人目なきぶらんこに降る流れ星 人気なきぶらんこに降る流れ星 <u>小夜更けてぶらんこに降る流れ星</u>	2019. 5.17 2019. 5.21 2019. 5.22 2019. 5.23
向日葵	冬知らぬゆゑひまはりの高々と ひまはりは雪の高さを知らざりき ひまはりは雪の色さへ知らざりき <u>ひまはりは雪の深さを知らざりき</u> ひまはりは雪の深さを知らぬまま	2019. 5. 5 2019. 5.16	天の川	<u>黒板の文字の短命天の川</u>	2019. 5.17
秋の暮	<u>秋の暮手垢の付きしものばかり</u> 釣り上げて食へぬ魚あり秋の暮 釣り上げて食へぬ魚や秋の暮 <u>食へぬ魚またも釣り上げ秋の暮</u> <u>下駄箱の中の長靴秋の暮</u>	2019. 5.18 2019. 5.28 2019. 5.28	水澄む	澄む水を暖かにして尻洗ふ 澄む水を暖かにして洗ふ尻 澄む水のぬるま湯に尻洗ひをる 澄む水のぬるま湯に尻洗ふなり 澄む水のぬるきシャワーに尻洗ふ 澄む水のぬるきシャワーを尻当て 澄む水のぬるきシャワーに洗ふかな 澄む水のぬるきシャワーの心地よし 澄む水のぬるきシャワーを当つるかな 澄む水のぬる湯で洗ふひとところ	2019. 5.13
秋の夜	秋の夜の朱色格子にものを書く 秋の夜の薄茶格子にものを書く <u>秋の夜の格子模様や卓の上</u>	2019. 5.18 2019. 5.19	虫籠	<u>虫籠の虫の跨る虫の餌</u>	2019. 5.17
夜長	長き夜のの薄茶格子にものを書く <u>長き夜の眠りに落るところかな</u>	2019. 5.18 2019. 5.18	夜学	<u>蜂蜜のとりりと夜学果つる頃</u> 蜂蜜のとりりと夜学果つるかな	2019. 5.29
八月	<u>八月の赤字九月の黒字かな</u>	2019. 5. 1	菊人形	<u>菊の香に菊人形の溺れをる</u> 取り敢へず菊人形に化けてみる 下手なりに菊人形に化けてみる 下手なりに菊人形に化けてさて	2019. 5.18 2019. 5.18
秋彼岸	<u>秋彼岸老いて不足のなき暮し</u>	2019. 5.19	蚯蚓鳴	<u>金輪際蚯蚓鳴くとも鳴かぬとも</u>	2019. 4.23
秋深し	秋深し原稿用紙の朱の升 秋深しもの書く朱の格子紙 秋深し朱の格子にものを書く 秋深し朱色格子にものを書く 秋深し朱色格子にもの書けば 秋深し朱色格子を文字で埋め もの書きに朱色格子や秋深し	2019. 5.17 2019. 5.18	鴟の贅	万歳の小さき両手や鴟の贅	2019. 2.24
秋風	秋風や招待券の長四角 秋風は招待券の長四角 秋風の招待券の長四角 <u>秋風の招待券の細長き</u>	2019. 5. 6 2019. 5.22 2019. 5.25			
秋の雨	<u>片隅に自転車倒れ秋の雨</u>	2019. 5. 1			

秋刀魚	火が付いて秋刀魚祭となりにけり	2019. 5. 17	桔梗	風船の五つに裂けし桔梗かな	2019. 5. 17	
	火が付いて秋刀魚祭の賑ひに			風船を五つに裂きし桔梗かな	2019. 5. 23	
	火がついて秋刀魚まつりの賑ひに			切り分けて等分の花桔梗かな		
	火がついて秋刀魚まつりのにぎはひに			切り分けて五等分なる花桔梗		
	火がついて秋刀魚祭の佳境なり	2019. 5. 18		神の手に五等分なる花桔梗		
	火がついて秋刀魚祭や今佳境	2019. 5. 20		神の手に切り分けられし花桔梗		
	火がついて秋刀魚祭やいま佳境			神の手に切られ五弁の花桔梗		
	火がついて秋刀魚祭や佳境なり	2019. 5. 21		西瓜	転がつて西瓜は丸く重くあり	2019. 5. 23
	火がついて秋刀魚祭は佳境へと				転がつて西瓜重たくなりけり	
	火がついて秋刀魚祭の佳境かな	2019. 5. 22			円満に不動の西瓜割れば赤	2019. 5. 23
これより佳境秋刀魚に火がついて	2019. 5. 25	桃	積み上げて白桃の山作りたし	2019. 5. 29		
これよりや秋刀魚に火がついて			積み上げて白桃の山作るかな			
これよりよ秋刀魚に火がついて			積み上げて白桃は山なせりけり			
これよりぞ秋刀魚祭に火がついて			積み上げて白桃の山つぶれつつ			
<u>これよりぞ秋刀魚祭が火を噴いて</u>			積み上げて自滅してゆく白桃の山			
<u>火に油注ぐ楽しさ秋刀魚焼く</u>	2019. 5. 25		積み上げて白桃の山自滅せり			
稲	曲直の色を違へて稲穂かな		2019. 5. 12	積み上げて積み上げて白桃の山		
	曲りつつ色を変へ行く稲穂かな		2019. 5. 14	積み上げて夢の高さの桃の山		
	曲りつつ色を変へゆく稲穂かな			積み上げて山となりたる桃の夢		
	曲りつつ色を変へたる稲穂かな			<u>白桃を夢の高さに積み上げて</u>		
	曲りつつ色を変へゆく稲穂こそ	2019. 5. 18	南瓜	南瓜とは大きな野菜重たくて	2019. 3. 1	
	曲りつつ色を変へゆく稲穂ゆゑ		曼珠沙華	曼珠沙華次の一手のありさうな	2019. 5. 18	
	曲りつつ色を変へゆく稲穂波		華	縦書は塔婆に良けれ曼珠沙華	2019. 5. 18	
	曲りつつ稲穂の色のvariゆく		寒し	海のもの陸に売らるる寒さかな	2019. 2. 11	
	曲りつつ青き稲穂の色vari		十二月	日を追ひて月の上れる十二月	2019. 4. 14	
	曲りつつ青き稲穂の色を変へ	2019. 5. 21	大寒	大寒や割りて鋭きチョコレート	2019. 2. 10	
曲りつつ青き稲穂は色を変へ		冬夕焼	大いなる猫の肛門寒夕焼	2019. 5. 9		
曲りつつ青き稲穂の黄金色	2019. 5. 22	氷柱	今日も折る軒の氷柱や出勤す	2019. 3. 22		
<u>曲りつつ青き稲穂は金色に</u>			今日もまた氷柱を折つて出勤す			
稲は日に芋は土中に太りつつ	2019. 5. 25	毛糸編	<u>毛糸玉子猫のために買ふことも</u>	2019. 5. 4		
<u>稲は日に芋は土中に太りをる</u>		障子	遠山の雷を聞く障子かな	2019. 5. 3		
朝顔	朝顔や曙色に暁色に	2019. 3. 17	スケー	スケートの先へ先へと憎らしき	2019. 5. 4	
	朝顔や夜明の色に夜の色に		ト	<u>スケートの先へ先へと憎らしや</u>	2019. 5. 18	
	<u>朝顔は夜明の色に夜の色に</u>	2019. 5. 20	ねんね	幻のねこの眠れるねんねこや	2019. 4. 25	
		冬籠	部屋の暖食物の冷冬籠	2019. 5. 29		
			部屋暖め食物冷やし冬籠			
		風呂吹	火にかけて風呂吹と葱味噌汁と	2019. 5. 30		
			火にかけて風呂吹よ葱味噌汁よ			
		湯ざめ	<u>湯ざめするまでは湯ざめでなかりけり</u>	2019. 5. 17		
		寒卵	<u>寒卵売場乳製品売場</u>	2019. 5. 30		

神の留	緋袴の巫女も老いたり神の留守	2019. 2.24	大根	葱大根右近左近と言ふごとく	2018.11.27
クリス	カクテルや降誕祭の光線は	2019. 5.25		脇役の脇役の大根おろし	2019. 5.30
大根焚	飲食の熱き湯気こそ大根焚 飲食の湯気と熱気の大根焚	2019. 5.29		脇役に脇役のあり大根おろし 脇役のその脇役の大根おろし 脇役に覚悟あり大根おろし 脇役の大根おろし白妙の 脇役も時に風呂吹大根かな 大根を風呂吹にして準主役 大根も風呂吹なれば準主役 大根も時に風呂吹大根かな 大根も今日は風呂吹大根かな 油揚げ入れて共に引き立つ大根汁 油揚げ入れて持ちつ持たれつ大根汁 油揚げ入れて和布も少し大根汁 大根の今日は風呂吹大根かな	
枯草	枯草が枯草の上に横たはる	2019. 3.24		大根のコンの力に太りけり 大根もコンクリートも男立て 大根もコンクリートも心意気 大根もコンクリートも男伊達 大根もコンクリートも健気なり <u>健気なりコンクリートも大根も</u> 健気かなコンクリートも大根も	2019. 5.30
				大根の穴の深さよ底に水	2019. 5.30
				穴暗し畑の大根を抜きたれば	2019. 5.30
				観音より大仏似合ふ大根畑 弥勒より大仏似合ふ大根畑 弥勒より大仏建てん大根畑	2019. 5.30
				軽トラは馬の代りよ大根積む 軽トラや馬の如くに大根積む	2019. 5.30
				大根は葉を茂らせて根を太らせ 大根は葉を茂らせて根を太く 大根は葉を青々と根を太く	2019. 5.30
				大根をすとなすとなと輪切にす 大根をすとなとなと輪切にす 大根をすとなすとなと輪切にす 大根をすとなすとなと輪切かな	2019. 5.30

葱	葱買うてフランスパンのやうに持ち	2019. 4.21	初日	ふりむけば影の長さよ初日の出	2019. 5.26
	葱買うてフランスパンも忘れずに	2019. 4.26		海坊主ほどに大きく初日の出	
	葱買うてセーヌは遠きパリの空	2019. 5.13		諸人に一人一人に初日の出	2019. 5.26
	葱買うて麻布十番暮れんとす <u>葱買うてパン屋の前を通りけり</u>			見えてみて遠きところや初日の出 赤々と見えみて遠き初日かな	2019. 5.26
	葱を煮る匂ひ大根を煮る匂ひ	2019. 5.29		赤々と火の丸出でし大旦	2019. 5.27
蜜柑	剥くと云ふこと林檎でも蜜柑でも	2019. 5.18	赤々と日の丸いでし大旦		
	剥くと云ふこと林檎にも蜜柑にも	2019. 5.18	赤々と日の丸出でし大旦		
	剥くならば林檎包丁指蜜柑	2019. 5.25	赤々と日の丸上る初日かな		
	剥く時は林檎包丁指蜜柑 <u>剥く時の林檎包丁蜜柑指</u>		日の丸の全き赤や初日の出 日の丸の海を出でたる初日かな		
去年今年	去年今年どんなに息を堪へても	2019. 5.25	日の丸の海より出づる初日かな		
	去年今年どんなに息をこらへても		日の丸の海より出づる初日の出		
	去年今年どんなに息をこらしても		日の丸の海を離るる初日かな		
	去年今年どんなに息を殺しても		日の丸の染めゆく海や初日の出		
	暗闇の中の波音去年今年	2019. 5.25	日の丸の海を離るる初日の出		
三が日	元日と二日三日や三が日	2019. 5.28	日の丸や海を離るる初日こそ		
新年	暗闇に波の音あり年新た		日の丸や海を離るる初日いま		
	新年や太古のごとく闇を来る 暗闇の中の波音年新た	2019. 5.25	日の丸や海を離るる初日なれ		
	暗闇に波音ありて年新た		日の丸は海を離るる初日なり		
数へ日	数へ日やチューブを絞り出す如く	2019. 5.25	日の丸や日出づる国の初日なれ		
	<u>数へ日やチューブを絞り出すやうに</u>		日の丸は海を離るる初日かな		
年の暮	欠伸して顔の長さよ年詰る	2019. 5.25	日の丸は海の放てる初日かな		
	<u>欠伸して顔の長さよ年の暮</u>		日の丸の赤の全き初日の出		
			<u>初日の出までを眠るか眠らぬか</u>	2019. 5.27	
行く年	ゆく年や厨に鍋の新しき	2019. 5. 9	しづしづと日の丸上げて大旦	2019. 5.27	
	行く年に隠れて息を殺したる	2019. 5.26	日の丸のしづしづ上る初日かな		
	行く年を間近に息を殺したる		<u>しづしづと日の丸上げて初景色</u>		
	行く年の近くに息を殺したる		ぼつかりと初日となつて生れけり	2019. 5.27	
	行く年の近くに息を殺しては		ぼつかりと初日は海に生れけり		
	行く年の近くに息をひそめたる		<u>ぼつかりと初日を生めり海の上</u>		
	行く年の近くに息をひそめつつ		ぼつかりと初日の浮ぶ海の上		
	行く年を見送る息をひそめつつ	2019. 5.28	ぼつかりと初日生まるる海の上		
	行く年に息を殺してあたりけり		ぼつかりと海の生みたる初日かな		
	<u>行く年に息を凝らしてあたりけり</u>	2019. 5.29	ぼつかりと初日生みたる海の上		
<u>行く年に歩調を合はすつもりなり</u>	2019. 5.25	安産の初日の浮ぶ海の上	2019. 5.29		
		安産の初日なりけり海の上			
		赤々と初日なりけり目出度けれ			

歌留多	歌留多の夜すなはち歌留多の世ありし 歌留多の夜すなはち歌留多の世のありし 歌留多の夜すなはち歌留多の世ありき 歌留多の夜すなはち歌留多の世のありき 歌留多の夜むかし歌留多の世ありけり そのむかし歌留多の世あり歌留多の夜	2019. 5.25	年用意	新しき鍋も混りて年用意 新しき鍋の活躍年用意 鍋釜の鍋新しき年用意 新しき鍋に始まる年用意 <u>買ひ替へし鍋に始まる年用意</u>	2019. 5.13 2019. 5.16 2019. 5.18 2019. 5.31	
	着飾りて詩歌に遊ぶ歌かるた 着飾りて詩歌に遊ぶ歌留多かな 着飾りて詩歌に遊ぶ歌留多会 <u>着飾りて詩歌の国の歌留多会</u>	2019. 5.28		年忘	歌も出て仲良しこよし年忘 歌も出て仲良きことよ年忘 歌も出て仲良きことも年忘 歌も出て仲良きは良し年忘 歌も出て仲良きは美し年忘	2019. 5.26
宝船	帆に受けて初の中を宝船 帆にうけて初日めでたし宝船 帆に受けて初日なりけり宝船 帆にうけて朝日めでたし宝船	2019. 5.26	恵方	<u>デパートの方が恵方であるらしき</u>	2019. 5.29	
	絵に書いた宝船なり眠るべし 絵に書いた宝船なり広げけり 絵に書いた宝船なり打ち広げ	2019. 5.26	除夜の鐘	山寺の篝火に撞く除夜の鐘 山寺に篝火ひとつ除夜の鐘 山寺に篝火ふたつ除夜の鐘 山寺の山に篝火除夜の鐘 <u>山寺のあたりが赤し除夜の鐘</u>	2019. 5.25 2019. 5.26	
	瓶に入れ流してみたし宝船 <u>瓶に入れ流してみたき宝船</u> 瓶に入れ流してもみん宝船 瓶に入れ流してもみむ宝船 瓶に入れ海に流さむ宝船 瓶に入れ海へ流さむ宝船 瓶に入れ海の旅へと宝船	2019. 5.26 2019. 5.27	無季	駅そばに富士の高嶺や桜海老 駅そばに富士の高嶺と桜海老 駅蕎麦に富士の高嶺と桜海老	2019. 5. 5	
	泣初 <u>泣初の赤子の舌の短さよ</u> 泣初の赤子の舌の小ささよ	2019. 5.29				
	初写真 初写真カメラは既に一部品 初写真おまけのやうなカメラにて 初写真カメラと云ふも一部品	2019. 5.24 2019. 5.25				
	初夢	初夢の雪は桜にvariけり	2019. 5.25			
		初夢を見て早起きをしてしまふ よき初夢に早起きをしてしまふ	2019. 5.26 2019. 5.27			
初夢の中を綺麗に掃き清め		2019. 5.26				
初夢を見たかと猫に聞いてみる にこにこと初夢の人誰ならむ 初夢に見知らぬ人のにこにこと <u>初夢に見知らぬ人がにこにこと</u>		2019. 5.26				
太箆 太箆の太きをもつて今年かな		2019. 5.25				